



子どもたちの「伝えたい思い」って、何？

学校長 小木曾敏樹

「歌声交流会」まで、あと一週間となりました。インフルエンザによる学年・学級閉鎖があって、歌うのを控えた期間もあり、それが仕上がり大きく響いているかもしれません。しかし、歌の出来よりも子どもたちが思いを込めて精一杯歌いきり、仲間とともに達成感を味わえば、それでいいと思っています。

「思いを込めて・・・」、子どもたちは曲を決める時や、どんな風に歌うのか、めあてや目標を考える時に、必ずこの「思い」という言葉を使います。

この「思い」って、いったい何なのでしょう。どんな思いなのでしょう。

10月、運動会の前にも、「南校だより」に書きましたが、言葉にならない、言葉にできない、言葉にしてはいけない、そんな思いなのだと思うのです。

見て欲しい、聞いて欲しい、ほめて欲しい。

頑張っている自分、素敵な仲間、みんなで創ったもの。

生んでくれてありがとう、育ててくれてありがとう、いつもありがとう。

そんな全ての思いが重なり合った時、それを一つの言葉に託すことは、とてもちっぽけすぎて、薄っぺらすぎて、出来なくなってしまう。だから、「思い」になるのでしょう。

それを私は、「無条件の愛情」と表現しました。

12月13日、ステージから届けられる、子どもたちからの「無条件の愛情」を、しっかり受け止めてください。そして、子どもたちにも「無条件の愛情」を、届けてあげてください。

「ミニ歌声交流会」で高め合う

「歌声交流会」を前にして、「ミニ歌声交流会」を行いました。体育館では1年生と3年生が、音楽室では2年生と4年生が、オープンスペースでは5年生と6年生が、それぞれ一曲ずつ歌って交流しました。

今年は各学年二曲ずつ発表するので、そのうちの一曲ずつをお互いに発表し合い、感想やアドバイスなどを交流しました。5・6年生の交流を見学していましたが、なかなかの出来映えだと感じました。朝一番の南っこタイムでの歌なので、声は出ていないはず。それでこのくらい歌えていれば、あと一週間あればいい歌になる・・・そんな感想をもちました。お互いにいい刺激になったのではないのでしょうか。



「本当にだいじなものは隠れて見えない・・・」

6年生が選んだ曲の一曲は、「いのちの歌」。昨年の6年生もこの曲を選びました。自我に目覚め始め、大人への大きな階段を上り始めた6年生にとって、生きることの意味、大人になりたい自分と子どものままでいたい自分、親への感謝と反発、温もりを欲する自分と一人歩きを始めようとする自分、様々な感情と葛藤の中で、素直な自分にふと立ち返った時に、この曲のような思いを抱き、そして、それを歌い、届けたいと思うのでしょう。

しかし、この曲の歌詞の意味は深く、まだ十分には理解できないはずです。この子たちが思春期を乗り越え大人になった時に、今とはまた違う理解が生まれることでしょう。

お父さん、お母さんたちには分かるのかといえば、それはどうでしょう。私はこの年になって、ようやくたどり着いた思いや考えが多くあります。この曲はその一つかもしれません。

「この星の片隅でめぐり会えた奇跡は、どんな宝石よりもたいせつな宝物」

孫が生まれても、やはり今は娘の方が可愛い。膝の中に入っていた頃と思いは変わらない。ただ幼い頃の記憶がどんどん薄れていくことが無性に悲しい。自分の子として生まれてきてくれたことに感謝する思いは、忙しかった頃よりも強くなっているかもしれない。そんな思いを自分の父母も感じていてくれたのだろうかと思うと、取り返しの付かない思いがよぎる。

「本当にだいじなものは隠れて見えない

ささやかすぎる日々の中にかげがえない喜びがある」

忙しく一生懸命生きていらっしゃるお父さんお母さん方だからこそ、見えないことがあるはずです。私自身がそうだったからです。だから、伝えたくて、こんな通信を書き続けている。

この曲を聴くたびに娘たちの姿が浮かんで来て、熱いものがこみ上げてきてしまいます。不思議なことにプロが歌うこの曲ではそうなりません。一生懸命歌う子どもたちの姿が私を感動へと誘うのか、子どもたちの歌に自分の娘たちの姿が重なるのか・・・。

「いつかは誰でもこの星にさよならをする時が来るけれど命は継がれてゆく」

いつか終わる命に未練があるとすれば、娘たちと会えないことだろう。

生きてゆくことの意味問いかけるそのたびに
胸をよぎる 愛しい人々のあたたかさ

この星の片隅でめぐり会えた奇跡は
どんな宝石よりもたいせつな宝物

泣きたい日もある絶望に嘆く日も
そんな時そばにいて寄り添うあなたの影
二人で歌えば懐かしくよみがえる
ふるさとの夕焼けの優しいあのぬくもり

本当にだいじなものは隠れて見えない
ささやかすぎる日々の中にかげがえない喜びがある

いつかは誰でもこの星にさよならを
する時が来るけれど命は継がれてゆく
生まれてきたこと育ててもらえたこと
出会ったこと笑ったこと
そのすべてにありがとう この命にありがとう

